

『行動前一人KY活動 自問自答カード』

● 次の項目を指差呼称しながら、作業行動を開始する前に、KY活動を実施しましょう !! ●

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| ① 墜落・転落しないか | ⑧ 感電しないか |
| ② 落ちてこないか・倒れないか | ⑨ やけどしないか |
| ③ はさまれないか・巻き込まれないか | ⑩ 腰を痛めないか |
| ④ 切れないか・こすれないか | ⑪ 保護具を正しく着用しているか |
| ⑤ 転ばないか・つまづかないか | ⑫ その他の危険はないか |
| ⑥ 踏み抜かないか | 〔機械設備工具や、作業工程ごとに危険を洗い出す。〕 |
| ⑦ ぶつからないか | |

建設機械は 資格保持者が必ず運転しましょう !!

『建設機械オペレーター資格の見える化運動』に取り組みましょう !!

● この建設機械のオペレーターは、私です。 ●



労働安全衛生法による技能講習修了証

氏名	
生年月日	
現住所	

有無	1	0	0	1	0	注
種類	高	中	小	所	上	意
有無	1	1	0	0	0	事
種類	小	中	大	シ	高	項

1. 本修了証は大切に、作業中は必ず携帯すること。
2. 本修了証を滅失し、又は損壊したときは、再交付を受けること。
3. 「備考欄」は、本人において記入しないこと。

車両系建設機械等 運転資格者の職務

1. 運転者は車両系建設機械には前記を遵守し、前記の下等により労働者に危険が生ずるおそれのある場所で使用する場合は、必要なガードを確保しなければならない。
2. 運転者は車両系建設機械を用いて作業を行うときは、作業中の労働者の安全を確保するための措置を講ずるものとする。
3. 運転者は車両系建設機械の運転、操作の安全を確保するための措置を講ずるものとする。
4. 運転者は運転中の車両系建設機械に故障する危険が生ずる場合に作業を中止し、必要な措置を講ずるものとする。
5. 運転者は車両系建設機械を運転するときは、当該機械の性能、構造等の状態を確認し、必要に応じて整備を行うものとする。
6. 運転者は車両系建設機械については、定められた定期点検を行うものとする。

運転資格者 氏名

私は、安全宣言を確実に守り、安全な運転作業を行います !!

所属事業場名：

運転者氏名：

建設機械の転落・転倒災害の防止は、シートベルト着用で 安全・安心 !!

『私の安全宣言』

- ① 私は、運転操作中、シートベルトを必ず着用します。
- ② 転落、接触災害等を防止するため、路肩崩壊防止等の措置、立入禁止措置、誘導者の配置を必ず行います。
- ③ 移動式クレーン仕様以外の建設機械では、つり上げ作業を絶対に行いません。
- ④ 運転席から降りる際は、バケット等を降ろし、キーは確実に抜きます。

『作業前KY活動』、『行動前一人KY活動』、『建設機械オペレーター資格の見える化運動』の取組を実施しましょう !!

写

大分労発基0825第3号
平成 29 年 8 月 25 日

建設業労働災害防止協会 大分県支部長 殿

大分労働局長

建設業における労働災害防止対策の徹底について(要請)

労働行政の推進につきましては、日頃より格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、本年の大分県下の労働災害による死亡者数は、全産業で9人、このうち、建設業では、昨年1年間の総数と同じ5人となっています(8月25日現在)。

これらの災害は、「高所作業時の安全帯の未使用」、「建設機械の無資格運転」等の基本的な安全対策が講じられていなかったことが直接原因と認められます。

また、作業前のKY活動を確実に実施するという土壌が定着していないことも災害原因の一つと考えられます。

これらの状況を踏まえ、貴職及び傘下会員事業場におかれましては、建設業における死亡災害の発生に歯止めをかけるため、下記の新たな取組を含む別紙「建設業における労働災害防止のための実施事項」について、積極的に取り組んでいただくよう要請します。

記

- 1 作業前KY活動の実施の徹底
- 2 行動前一人KY ちょっと待て、その判断、その行動前に安全確認の実施
- 3 建設機械オペレーター資格の見える化運動の実施

別紙

建設業における労働災害防止のための実施事項

2 会員事業場の実施事項

- (1) 経営トップによる災害ゼロを目指す決意表明及び下請業者を含めた建設工事現場への安全意識の浸透
- (2) 経営トップ等によるすべての建設工事現場に対する安全パトロールの実施
- (3) 墜落・転落災害、重機災害及び崩壊・倒壊災害防止対策の確実な実施
- (4) 各建設工事現場でのリスクアセスメントの実施
- (5) 「各建設工事現場2項目重点労働災害防止運動」の実施
- (6) 「建設機械シートベルト着用運動」の実施
- (7) 作業前KY活動の実施の徹底
- (8) 行動前一人KY ちょっと待て、その判断、その行動前に安全確認の実施
- (9) 安全の見える化運動(『建設機械オペレーター資格の見える化運動』を含む。)

※ 下線部は、新規の取組



KY(危険予知)活動を確実に実施し、労働災害を防止しましょう!!



『作業前KY活動』『行動前一人KY活動』の完全実施

監督者・職長・安衛責任者・作業者などが、作業現場の状況を確認しながら、主として、行動面の対策を決定します。

① 現状把握	これから行う作業に、どんな危険が潜んでいるか？	➡	考えられる危険を出し合う。
② 本質追及	危険のポイントは何か？	➡	危険を絞り込む。
③ 対策樹立	あなたならどうするか？	➡	対策を出し合う。
④ 目標設定	私たちはどうするか？	➡	行動目標を絞り込む。

一人KYで ちょっと待て、その判断、その行動前に 安全確認 !!

作業者などの各自身が、作業行動にかかる前に、作業現場の状況を「指差呼称」で確認しながら、自問し、行動面の安全対策を再確認して、作業を開始します。

労働災害防止の最後の砦は、自分自身です。

『KY活動』は、災害を起こして後悔する前に、職場のみんなで話し合っ
て、危険を予知して“安全を先取り”することです。

その安全を先取りする前に、KY活動を...

- ① 作業を始める前に、作業現場で、その作業に「どんな危険が潜んでいるか」を話し合い、「これが危険だ。」と“危険のポイント”について合意する。
- ② 対策を決め、“行動目標”、「指差呼称」の項目を決定する。
- ③ 一人ひとりが、作業の中で、「指差呼称」で確認し、行動する前に危険を防止する。

『指差呼称』は、目・腕・指・口などを総動員して、自分の作業行動や、対象物の状態を確認するもので、行動ミスの発生率が \sim 6分の1以下、となります

『指差呼称』の基本は...

- ① 「目」は、確認すべき対象をしっかりと見る。
- ② 「腕・指」は、利き腕を伸ばし、人差し指で対象を指す。
- ③ 「口」は、はっきりとした声で、「○○〔安全帯取付、電源OFFなど〕ヨシ!!」と唱える。
- ④ 「耳」は、自分の声を聞く。



『KY(危険予知)活動』の効果は？



はじめよう『作業前KY活動』と『行動前一人KY活動』

『KY(危険予知)活動』は、作業方法、機械設備工具、作業環境などを確認しながら、これから行う作業の中に潜む危険有害要因、について、職長などを中心とした全員での話し合いを、毎日、継続的に実施することで、作業者が危ないと感じる感覚、危険有害要因への感受性、集中力が高まり、問題解決の向上と安全作業の実行能力を向上させます。

- ① 「危険への感受性を鋭くする。」
毎日、大事なところを繰り返し行うことによって、危険なことを「危ない」と感じる感覚や、危険・有害要因への感受性を鋭くします。
- ② 「安全作業への集中力を高める。」
危険が潜む作業の大事なところで、指差呼称「○○ヨシ!!」することによって、集中力を高めます。
- ③ 「作業者自身が気づき、やる気が高まる。」
どんな危険が潜んでいるかの危険・有害要因に対する話し合いの中で、危険を危険と気づき、やる気が生まれ、実践への意欲や、問題解決能力を高めます。

『作業前KY活動の取り組み方』

職長などは、睡眠・食欲・体調に関する確認の「健康KY」、作業内容・手順、割り振り、安全衛生指示を行う。職長などは、作業者に問い掛けしながら、安全意識を導き出す。

- 作業者は、「どんな危険」があるか予想し、自主的に「対策」を挙げ、「行動目標」を明確にする。

職長など・作業者全員で指差唱和しながら「行動目標のシュプレッヒコール」を行う。

職長などは、各自の作業場所に着いたら、「行動前一人KY」を実施するよう指示する。

『行動前一人KY活動の取り組み方』

現地でグループによる「作業前KY」を実施後、一人ひとりがそれぞれの作業場所で、作業開始前点検を行い、「作業開始行動前」や、「休憩後」、「作業変更時」、「作業場所変更時」などの際、作業行動を開始する直前に、その都度、短時間で

- 自分が落ちないか？ 「開口部 手すり ヨシ!!」
- 物が落ちてこないか？ 「上 ヨシ!!」 など

『行動前一人KY 自問自答カード』(裏面参照)に基づき、自分の上下、前後、左右などの周囲に指差呼称、により声を出し、指で差しながら確認する。

不具合を見つけたら、そのままにせず、不具合を改善してから作業行動を開始する。

事業者、職長などがやってみせて、現地での「行動前一人KY」の完全定着を目指す。